

IP マルチキャスト伝送評価に対応

IGMPv1/v2/v3、MLDv1/v2 ホストエミュレーションに対応 (V9.09 以降)

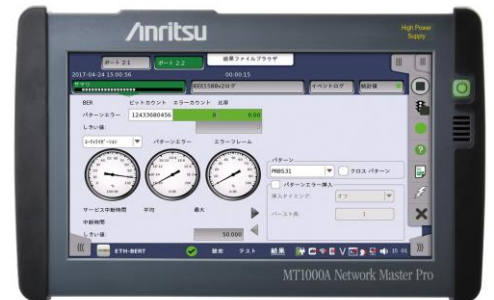
ネットワークマスタ プロ MT1000A

10G マルチレートモジュール MU100010A

100G マルチレートモジュール MU100011A

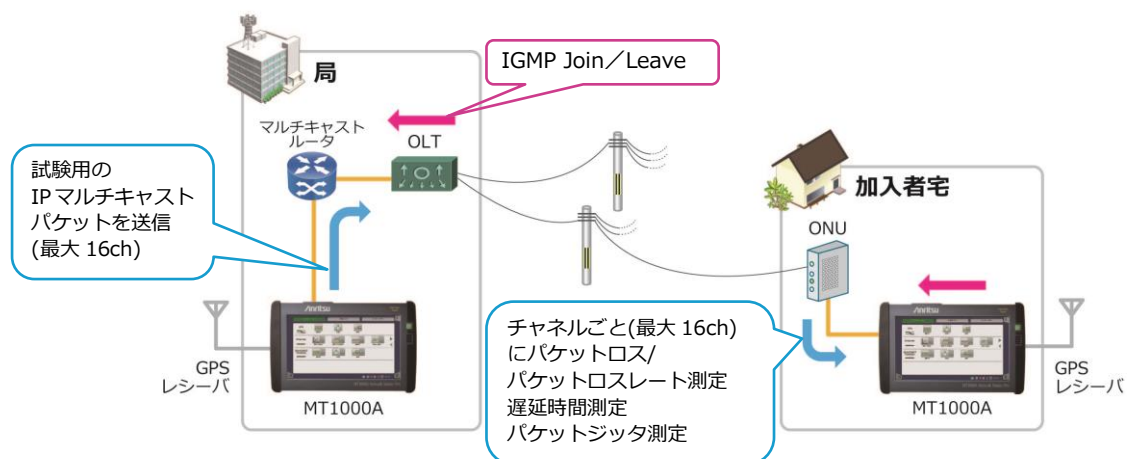
主な特長：

- MU100010A : 10/100/1000M 電気～10GbE に対応
- MU100011A : 10/100/1000M 電気～100GbE に対応
- イーサネット、IPv4/v6、UDP/TCP、VLAN (多段) 対応
- 開通試験 (スループット、遅延、パケットジッタ、BER 測定、QoS/CoS 試験) に対応
- 保守業務 (上り/下りトラフィック同時モニタ、1 台で機器の故障診断) に対応
- TCP スループット解析
- 自動試験機能を標準装備。開通試験の合否判定も自動で実行
- モバイルルータを使用しスマートフォン (Android/iPhone) から遠隔制御
- OTDR モジュールも同時実装可能



動画配信や監視カメラの映像配信では、IP マルチキャストによる通信が使われます。IP マルチキャスト配信では、マルチキャストルータがマルチキャストグループごとにホストを管理しています。ホストがマルチキャストストリームを受信するためには、マルチキャストルータに対して、IGMP あるいは MLD を使用し、Join (参加) を実行する必要があります。ネットワークマスタ プロ MT1000A では、IGMP、MLD をエミュレーションし、測定ポートあたり、最大 16 のグループチャンネルの Join (参加)、Leave (離脱) を行うことができます。

以下のように MT1000A を対向で、IP マルチキャストの伝送評価を行うことができます。



FTTH における IP マルチキャスト試験 例

測定チャンネルごとにパケットロス数、あるいはロスレートの不合格しきい値、遅延時間の不合格しきい値、パケットジッタ量の不合格しきい値をそれぞれ設定でき、グループチャンネルごとに合格（背景が緑色）、不合格（背景が赤色）判定を自動で行います。

また、自動試験機能を使用することにより、フィールドで、簡単に IP マルチキャスト伝送評価を行うことができます。

パケットロス/ロスレート測定

IP マルチキャストのグループチャンネルごとにパケットロス/ロスレート測定が可能です。



遅延時間測定※

IP マルチキャストのグループチャンネルごとに遅延時間（レイテンシ）測定が可能です。



※MT1000A 2台で対向して遅延時間測定を行う場合、GPS レシーバにより、各々の MT1000A で時刻同期を行う必要があります。

パケットジッタ測定

IP マルチキャストのグループチャンネルごとにパケットジッタ測定が可能です。

